

平成 28 年 7 月 1 日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会
--

筒賀断層の長期評価

1. 断層の位置・形態

筒賀断層は、広島県山県郡北広島町から安芸太田町、廿日市（はつかいち）市にかけて分布する活断層である（図1）。筒賀断層の長さは約 58 km で、概ね北東-南西方向に延びる。筒賀断層は右横ずれを主体とする断層である。

2. 断層面の地下形状

筒賀断層の断層面の長さは、地表で確認される断層長さと同じ約 58 km であると推定される（表1）。断層面の傾斜は、ほぼ鉛直の可能性はある。断層面の幅は不明であるが、地震発生層の下限を目安とすると 15-20 km 程度の可能性はある。

3. 過去の断層活動

筒賀断層の平均的な横ずれの速度、過去の活動時期、平均活動間隔は、不明である。

4. 活動時の地震規模

筒賀断層は、全体が1つの区間として活動する場合、マグニチュード 7.8 程度の地震を発生させると推定され、その際には断層近傍の地表に 6 m 程度の右横ずれを生じる可能性がある。

5. 地震後経過率（注1）

筒賀断層は、過去の活動が不明であるため、地震後経過率や地震発生確率を算出することができない。

6. 今後に向けて

筒賀断層については、過去の活動についてデータが得られていないため、地震後経過率や地震発生確率を評価できていない。よって、過去の活動履歴に結びつく資料を蓄積していく必要がある。

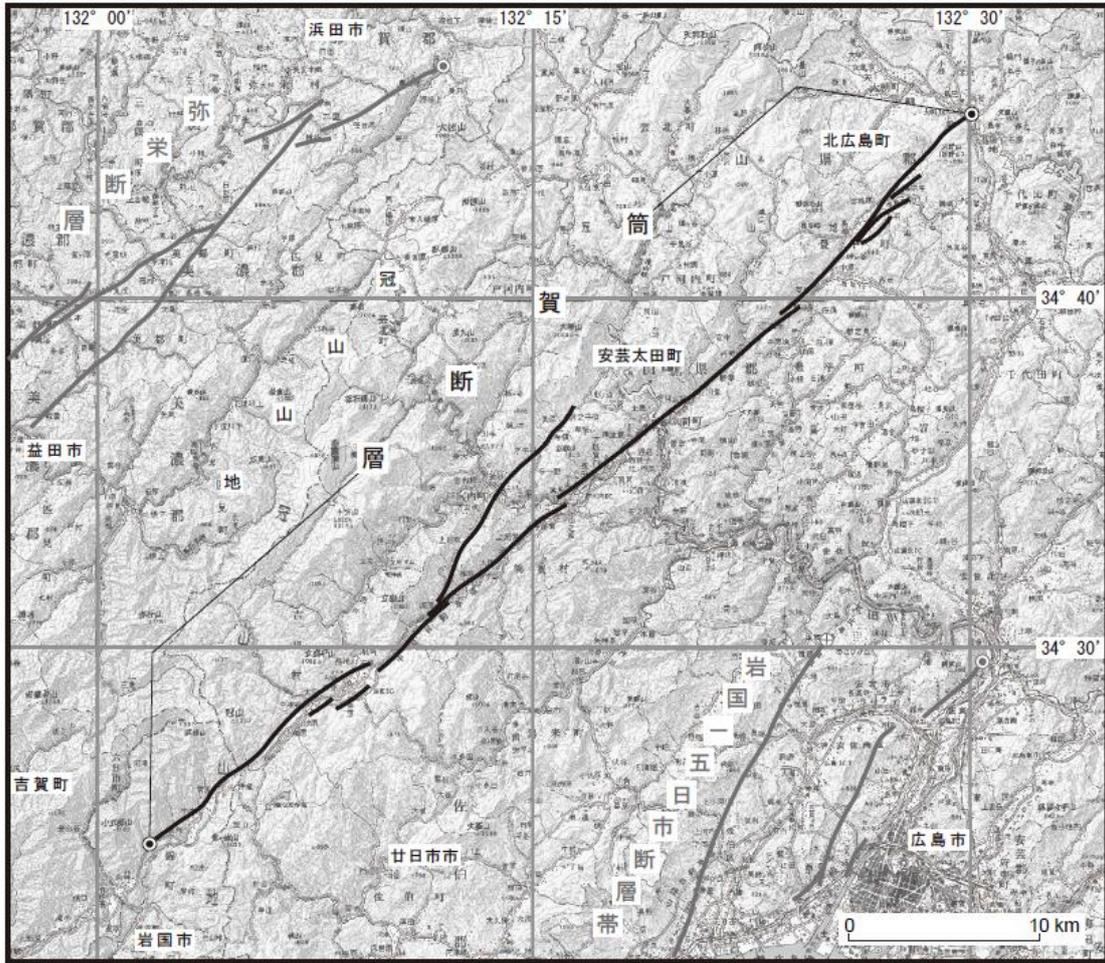


図1 筒賀断層の位置

● : 断層の端点

基図は国土地理院発行数値地図 200000 「広島」、「浜田」、「山口」、「見島」

表 1 筒賀断層の特性

項目	特性	信頼度 (注2)	根拠 (注3)
1. 断層の位置・形態			
(1) 構成する断層	筒賀断層		文献1による。
(2) 断層の位置・形状	断層の位置 (北端) 北緯34° 45.3' 東経132° 30.0' (南端) 北緯34° 24.5' 東経132° 01.8' 長さ 約58 k m 一般走向 N48° E	○ ○ ○ ○	文献1、2などによる。 一般走向は断層帯の両端を結んだ方向。
(3) ずれの向きと種類	右横ずれ断層	○	文献1、2の記述などから推定。
2. 断層面の地下形状			
(1) 断層面の傾斜	ほぼ鉛直	△	文献1の記述などから推定。
(2) 断層面の幅	上端の深さ 約0 k m 下端の深さ 不明 断層面の幅 不明	◎ △	D90による地震発生層の下限深さは15-20 k m程度。
(3) 断層面の長さ	約58 k m	○	地表の断層長さから推定。
3. 断層の過去の活動			
(1) 平均的なずれの速度	不明	—	
(2) 過去の活動時期	不明	—	

(3) 1回のずれの量	6 m程度（右横ずれ成分）	△	断層の長さから推定。
(4) 平均活動間隔	不明	—	
(5) 過去の活動区間	断層全体で1区間	△	断層帯の位置関係・形態等から推定。
4. 活動時の地震規模			
(1) 活動時の地震規模	マグニチュード7.8程度	△	断層の長さから推定。
5. 地震後経過率			
地震後経過率（注1）	不明	—	

注1：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

注2：信頼度は、特性欄に記載されたデータの相対的な信頼性を表すもので、記号の意味は次のとおり。

◎：高い、○：中程度、△：低い、▲：かなり低い

注3：参考文献

文献1：中田 高・今泉俊文編（2002）：活断層詳細デジタルマップ．東京大学出版会，60p.

文献2：田力正好・中田 高・堤 浩之・後藤秀昭・水本匡起・松田時彦（2015）：筒賀断層帯およびその周辺地域の活断層の分布と断層変位地形：中国地方西部の活断層密集地域に発達する長大活断層の一例．日本地球惑星科学連合大会予稿集，SSS28-P18.